

妙安寺だより

テレフォン法話 092 (751) 608

4

花祭り

4月8日は、お釈迦様がお生まれになった日で、この日を祝う祭りが、「花祭り」ですが、正しくは「釈迦降誕会」といいます。

昔のインドでは、お産をするときには実家へ帰ることになっていました。摩耶夫人は、月満ちて子供が生まれそうになったので、実家へ帰ろうとして途中の花園で休んでいたところ、目の前に花をつけた大きな菩提樹がありました。

そこで夫人は立ち上がり、その花をとろうとして左手を出したところ、脇の下から赤ん坊が生まれ、その赤ん坊は前後左右に三歩いてから、真ん中に立ち、右手は天に指し、左手は地を指して、「天上天下唯我独尊」と言ったといわれています。この赤ん坊が、後にお釈迦様になった人です。

母が花の枝を取ろうとしたときに生まれたという縁起から、花の精霊だという考え方が生まれ、「釈迦降誕会」には、花御堂を作って出産を喜ぶ祭りとなりました。この思想が日本に伝わると、花はめでたいもので、また生命力の象徴になっているので、すぐに「花祭り」をするようになりました。

また、お釈迦様が生まれたとき、インドには空から甘露の雨が降ったという故事があり、花祭りの日には、釈迦降誕像の頭から甘茶をかけるようになりました。

お寺では、釈迦降誕像を花で飾り、裸の像に甘茶をかける行事が基本でした。この祭りは、奈良時代から行われており、日本最古の釈迦降誕像は東大寺にあり国宝の指定を受けています。

この像は、大きな鉢の上に乗っていて、これに甘茶をかけたのは事実だといわれているので、1200年前から「花祭り」をやっていたことは間違いなさだろうといわれています。

身延山総登参詣 参拝の案内

10月22日（水）～24日（金） 2泊3日 22日（水）の午後2時より「福岡県身延法要」

22日福岡～羽田～身延（泊） 23日身延～諏訪湖～蓼科温泉（泊） 24日蓼科～中仙道～名古屋～博多

費用 780,000円（参加申込金 280,000円）

募集人員 80名（人員制限のため1カ寺5名）

締切日 8月末日（ただし5月末日に、80名に達した場合はその時点で再募集は行ないません）

参加後希望の方は、お早めにお申し込みください。

